

先日、県議会自民党会派でJA中央会様との勉強会を開催しました。

ここ20年、九州各県で農業産出額が減少する中、本県は15%以上増加という数字にみられるように本県の農業は元気な状況にあります。しかし国全体では深刻な状況です。

日本の食料自給率（供給熱量ベース）は38%と低く、例えば小麦約8割、大豆約9割は輸入に依存していることを踏まえ、ざっくり述べて以下に状況があります。

### ■日本の食料自給率

先進国で  
最低の水準

### ■食料輸入大国日本

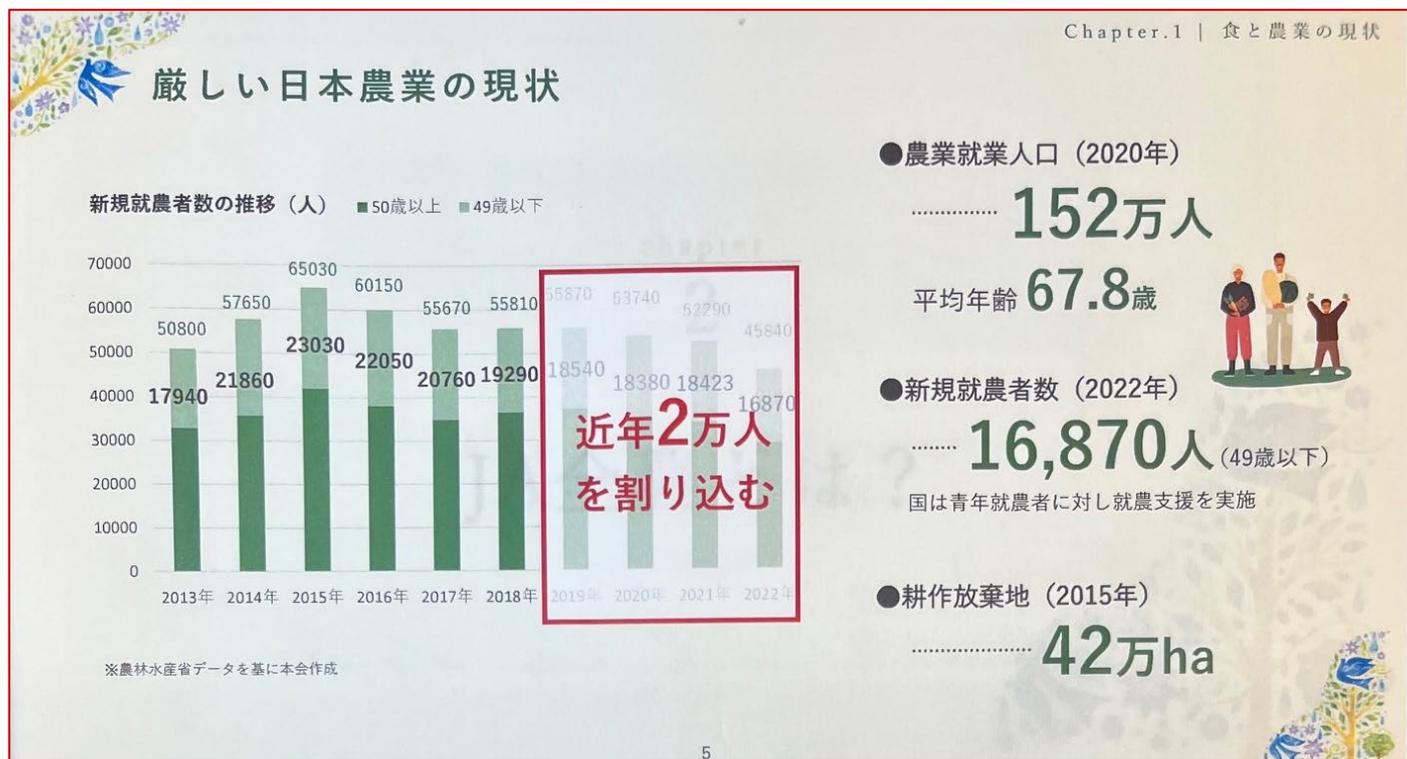
特定の国からの  
輸入に依存

### ■世界的凶作で 輸入ストップ？

円安による  
輸入単価上昇

## 国内農業が 重要になる

背景として日本の農業の極めて厳しい現状があります。



本県の農業を守り発展させるための原動力となっているJA中央会様との勉強会では、生産現場の厳しい状況と農業団体から県の農林施策への要望事項（以下）について学び、認識を共有しました。

- ・ 補助事業の緩和
- ・ 資材価格高騰対策の継続、強化
- ・ 物流 2024 問題への対応
- ・ 農産物の適正な価格形成
- ・ 本県農業、農村の課題

今年度、私は農水経済委員会に所属していますので、水産業も含め一次産業の振興について関係者との繋がりを例年以上に持ち、議会での発言に活かすことで現場の声を反映した施策推進に努めたいと思います。

